



こどもエコクラブサポーターズミーティング

せんもんがっこうせい ちゅうがくせい
 専門学校生と中学生による
 ちいきかだい じしん ぎもん
 地域課題や自身の疑問に関する
 けんきゅうはっぴょう いけんこうかんかい
 研究発表と意見交換会

こどもエコクラブは、幼児（3歳）から高校生まで誰でも参加できる環境活動です。その目的は、こども達の環境保全活動や環境学習を支援することにより、人と環境の関わりについて幅広い理解を深め、自然を大切に思う心や、環境問題解決に自ら考え行動する力を育成し、地域の環境保全活動の環を広げることです。

サポーターズミーティングは、こども達の自主的な活動をあたたかくサポートする大人（保護者・関係者）が集い、こども達の活動をサポートする方法について情報共有を図る交流の場です。

今回は、専門学校生とこどもエコクラブ会員双方の活動発表を通して、サポーターが行ったことや今後の可能性等を情報共有し、活動の充実に結び付けることを目的として2023年2月26日(日)に開催しました。

参加者 上野法律ビジネス専門学校総合ビジネス学科 2年生と講師
岩手大学教育学部附属中学校 1年生
一般市民 6名
場 所 環境学習交流センター
次 第 活動発表：専門学校生の活動事例発表
こどもエコクラブ会員の活動事例発表
活動についての質疑応答
今後の活動についての意見交換



■^{せんもんがっこうせい}専門学校生の^{はっぴょう}発表^{あたら}1：^{いわて}新しいキャンプIWATE

^{テレビ}TVやアニメの^{えいきょう}影響で、^{せかいてき}世界的な^{だいじ}第2次キャンプブームとなっ
ており、^{しゅくはく}宿泊キャンプや^{ひがえ}日帰りキャンプなどの^{にんき}人気が高まってい
る^{じょうきょう}状況の中、^{なか}男子学生^{だんしがくせい}3名の^{たいけん}体験レポートを^{はっぴょう}発表していただき
ました。



キャンプ^{たいけん}体験を通して、^{とお}街中キャンプの^{まちなか}有力な候補地として
^{もりおかしな}盛岡市内の^{かわとく}川徳デパートの^{おくじょう}屋上や^{もりおかしじょうあとこうえん}盛岡城跡公園、^{きっぷしりよくち}木伏緑地の
^{ていあん}提案がありました。また、キャンプは^{ちょうないかい}町内会の^{かつどう}活動や^{こうりゅう}交流の

ば しょくざい ちさんちしょう むす つ かのうせい たか きょうちよう
場、食材の地産地消に結び付く可能性が高いことが強調されま
した。

■ 専門学校生の発表 2：リンゴ農家に学ぶ

リンゴ農家への取材と体験学習について、発表していただき
ました。日本では主に、甘い味のリンゴをそのまま味わっていま
すが、世界では酸味のあるリンゴを調理して食べることが多いそ
うです。



取材に訪れた有限会社サンファームでは、酸味のあるリンゴ生
産に取り組み、お菓子の材料としての活用をきっかけに、農業体
験を通して全国のパティシエと交流を深めているとのことでした。

また、体験学習でサンファームの農園を訪問した際には、生産
者の方から「リンゴの木の高さを低くし、収穫しやすい工夫にと

「組んでいる」ことや「冬の期間も作業があるので、一年中忙しい」ことを教えていただいたそうです。

■ 専門学校生の発表 3：岩手県のCO₂排出の抑制について

岩手県のCO₂排出と抑制の現状について調べたことを、発表していただきました。

岩手県のCO₂排出の現状、森林資源のCO₂吸収の状況か

ら、課題解決のためには地熱発電所、風力発電所、波力発電、

水素エネルギーなどの再生可能エネルギーが普及することが重要

であり、電気自動車などの積極的導入によって、排出抑制が行

われることに期待するという内容でした。



CO₂排出抑制の実践例の1つとして、小岩井農場では、使用済み天ぷら油を燃料にして発電したイルミネーションイベントを開催していることが紹介されました。

最後に、電車やバスを使う、家で植物を育てるなど、自分のできることに取り組み、CO₂削減を目指したいと意欲を示されました。

■ 専門学校生の発表4：「実践2022岩泉ホールディングス」

岩泉町の岩泉ホールディングスについて、第3セクターの仕組みや、「道の駅（三田貝分校）」などでの商品販売内容、IBC祭りミルクフェアでの2日間の販売体験で取り組んだことなどを発表していただきました。



販売体験では、イベント限定の小さいサイズのヨーグルトや、ヨーグルト専用の木製スプーン、コスメ商品の売れ行きが非常に良かったことを実感したことに加え、販売だけでなく裏方の仕事も知ることができ、貴重な体験をすることができたと話されました。

■こどもエコクラブ会員の発表：「大ザリガニ釣り大会」

こどもエコクラブ会員の澤崎わかなさん(中学生)には、Green
ブルー - エデュケーション フォーラム
Blue Education Forumコンクール にお誘いし、U15部門 環境
大臣賞を受賞した作品を、動画で発表していただきました。

盛岡市近郊のトンボの生育 状況 調査をする中で、盛岡市の盛
岡城 跡公園内にある鶴ヶ池付近の悪 臭やザリガニの生息数の多
さに気づき、「ザリガニがトンボの幼 虫を食べ、トンボが減った
原因となったのではないか？」という疑問を持ち、2021年10月
と2022年7月に、池に生息するアメリカザリガニの駆除のため
「大ザリガニ釣り大会」を開催したとのこと。



「大ザリガニ釣り大会」は、盛岡市民有志と盛岡市の協力を受
けて市民参加型のイベントとなり、動画の発表では会場での釣
り参加者の様子や、岩手県知事や盛岡市長が参加したことなど
を、模造紙に絵や写真を貼って分かりやすく整理し、報告されま
した。

発表の最後は、「小さなことを頑張っていくと、大きなアクションになることにつながっていく！」という言葉でしめくられました。

わかさんの妹は、自分たち小学生も一生懸命頑張ったことを伝えてくれました。

2人のお母さんは、みなさんの協力があつての活動であったことを強調していました。

●意見交換



『新しいキャンプIWATE』について、盛岡城跡公園が街中キャンプの候補地にあがったことで、「親子でも手軽に安心して出かけることができ、魅力的」との意見が出ました。

『リンゴ農家に学ぶ』では「観光農園としての魅力を発信したり、料理コンクールに参加するなどの協力ができるのではないか」と意見交換が行われました。

『大ザリガニ釣り大会』について、活動に関わり応援していた

市民の方は、「この活動は、わかかなさんのお小遣い三千円から始

まり、多くの大人が応援・協力し、地域ぐるみの活動となっ

た」と話してくださいました。

また、「釣ったザリガニはどうしたの？」という質問があり、

わかかなさんは「大槌町の東京大学大気海洋研究所にひきとって

いただき、研究の材料になりました」と答えるなど、活発に

感想や意見が出されました。

～ まとめ ～

専門学校生と中学生から、地域課題や、自身の疑問に関する研究発表があり、今後の提案や目標が示された素晴らしい発表でした。

今回のサポーターミーティングを通じて、自発的な子ども達の活動を、大人が協力・応援することが重要で、より一層活動を発展させるために、大人が子ども達に寄り添い、探求心や向上心を高めるためにサポートすることが大切だと感じました。

若い人の活動を見守る大人も成長することが大事と思えた貴重な機会となりました。

■■■ 岩手県内の環境イベント情報について ■■■

岩手県内で開催されている、野外体験、環境に関わるイベントなどの最新情報は、インターネット上で公開されています。ぜひ、身近な情報をキャッチして、積極的に参加してみましよう。

「いわて環境情報発信サイト・イベントカレンダー」
のHP アドレス

<https://www.aiina.jp/site/environment/>



発行：環境学習交流センター

★連絡先 〒020-0045 岩手県盛岡市盛岡駅西通1丁目7番1号

いわて県民情報交流センター(アイーナ)5F

TEL:019-606-1752 FAX:019-606-1753 E-mail:eco@aiina.jp

URL: <https://www.aiina.jp/site/environment/>

★開館時間：毎日 9:00～18:00 (休館日は年末年始とアイーナ休館日に準じる)